## アフターサービス

・万一故障の場合は、お買上の販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をくわしくご連絡の上お申しつけください。

・保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

## 保　証

・保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。

・保証期間終了後の修理については、お買上の販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。


製造元

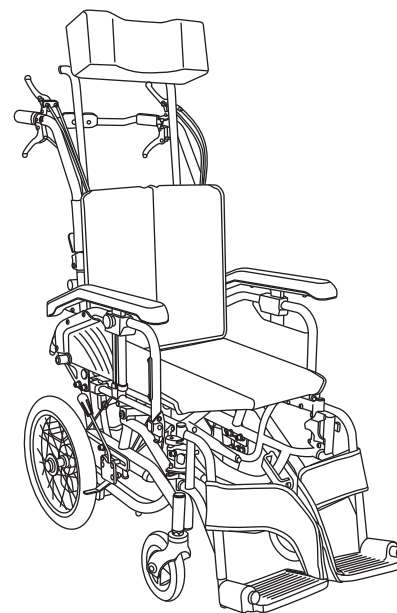
株式会社　ミ　キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番10号

TEL 052-694-0333　FAX052-694-0800


1212-001

# SKT-8

# 取扱説明書

## はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

## 目　次



本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

## はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- ●車いす本体　*1ケ
- ●座アウターシート　*1ケ
- ●インナーパッド大小　*各2ケ
- ●ヘッドサポート　*1ケ
- ●背アウターシート　*1ケ
- ●レッグサポート　*左右各1ケ
- ●転倒防止バー　*2ケ
- ●工具（スパナー2ケ　六角レンチ5㎜･4㎜･3㎜各1ケ）
- ●取扱説明書（本書）
- ●保証書

### ご使用前の準備は、下記のページをお読みください。


- •P12　開きかた
- •P17　シートの取り付けかた
- •P31　ヘッドサポートの取り付けかた
- •P30　転倒防止装置の取り付けかた


## 使用目的・特徴

本製品は介助者が操作を行なう車いすで、一人乗り用です。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ･入浴など）のものではありません。

ティルト（座角度調整）機能とリクライニング（背角度調整）機能を装備しています。

## 安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害･物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

| | |
|---|---|
| ⚠危険 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。 |
| ⚠警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。 |
| ⚠注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。 |





【記号の意味】

| | |
|---|---|
| ⚠ | 警告･注意を促す内容があることを告げるものです。 |
|  | 禁止の行為であることを告げるものです。 |
|  | 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 |

### ⚠危険

**スピードを出さないでください。**
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

**急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。**

**通常は、必ず転倒防止装置が機能するように取り付けて使用してください。**
後方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

### ⚠警告

**乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。**
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

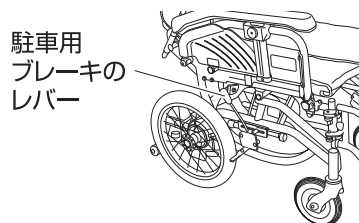
**制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

**使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。**
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

**走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

**乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。**
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

## ⚠警告

**乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。**
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

**アームサポートやフット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。**
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

**前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。**

**ティルト・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。**
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

**各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。**
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

**車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。**
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

**ティルト・リクライニング操作は必ず介助者が行ってください。**

**ティルト・リクライニングさせた状態で乗り降りしないでください。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

**ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。**
転倒など事故につながる恐れがあります。

**走行中は、アームサポートフレームの跳ね上げ、フット・レッグサポートの開閉、ティルト操作等をしないでください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。



安全上のご注意

## ⚠警告

**開き式フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。

**開き式フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。

**跳ね上げ式アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないください。**
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

**乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。**
けがをする恐れがあります。

**タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。**
タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損するおそれがあります。

**跳ね上げ式アームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。**
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

## ⚠注意

**この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。**

**最大体重(積載物含む)は100kgになります。体重制限を守って使用してください。**

**車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。**
手をはさみ危険です。

**使用者が乗車中は、背折れジョイントの操作は絶対に行わないでください。**
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。

**背折れジョイント、跳ね上げ式アームサポート、フット・レッグサポート、ティルト・リクライニングの可動部等に指や身体をはさまないよう注意してください。**

## ⚠注意

**走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。**

**走行中、身体を乗り出さないでください。**
走行の安全を損ない危険です。

**操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。

**フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。**
けがをする恐れがあります。

**フットサポートの下には足を入れないでください。**
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

**使用する前に主輪、キャスタ、駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。**

**アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートフレームの先端がバックサポート前面よりもはみ出さない位置まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。**
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

**ティルト・リクライニングさせた状態でアームサポートを跳ね上げないでください。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

**折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。**
手をはさみ危険です。

**介助者は、ティルト・リクライニング操作をする前に「倒します」「起します」と声をかけてください。また操作するときは、使用者の体重が押し手にかかりますのでしっかり支えてください。**





## ⚠注意

**フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。**
けがをする恐れがあります。

**暖房器具にタイヤを近づけないでください。**
タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。また、エアタイヤの場合、空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

**段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。**
車いすの破損や故障の原因となります。

**フットサポート下面は地上より50㎜以上あげた状態で使用してください。**

**車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。また、車いすを長時間、車内やトランク内に載せたままにしないでください。**
車いすの破損や故障の原因となります。

**シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。**
製品を傷める恐れがあります。

**使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。**
車いすの破損の原因となります。

**アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。**

# 各部のなまえ

## 前側

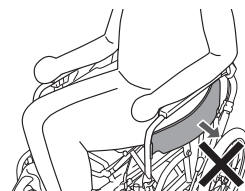
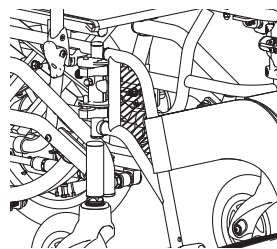
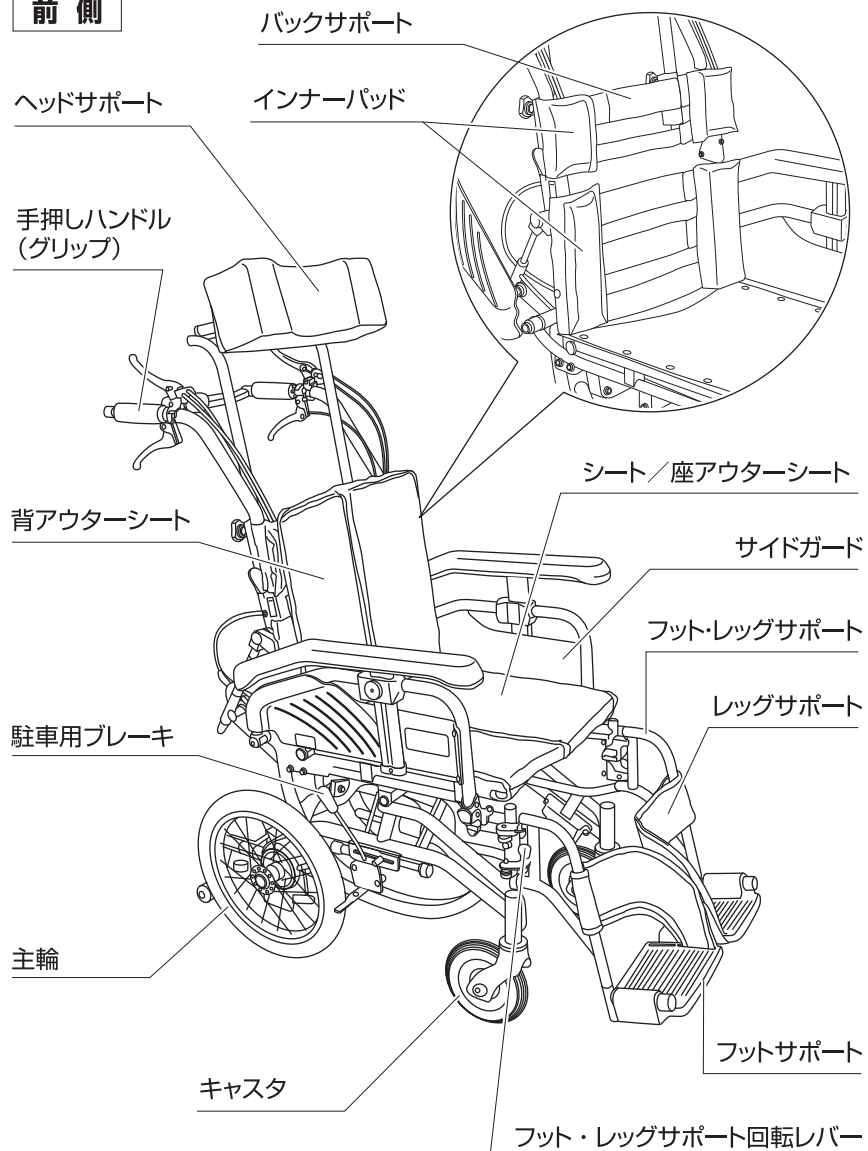
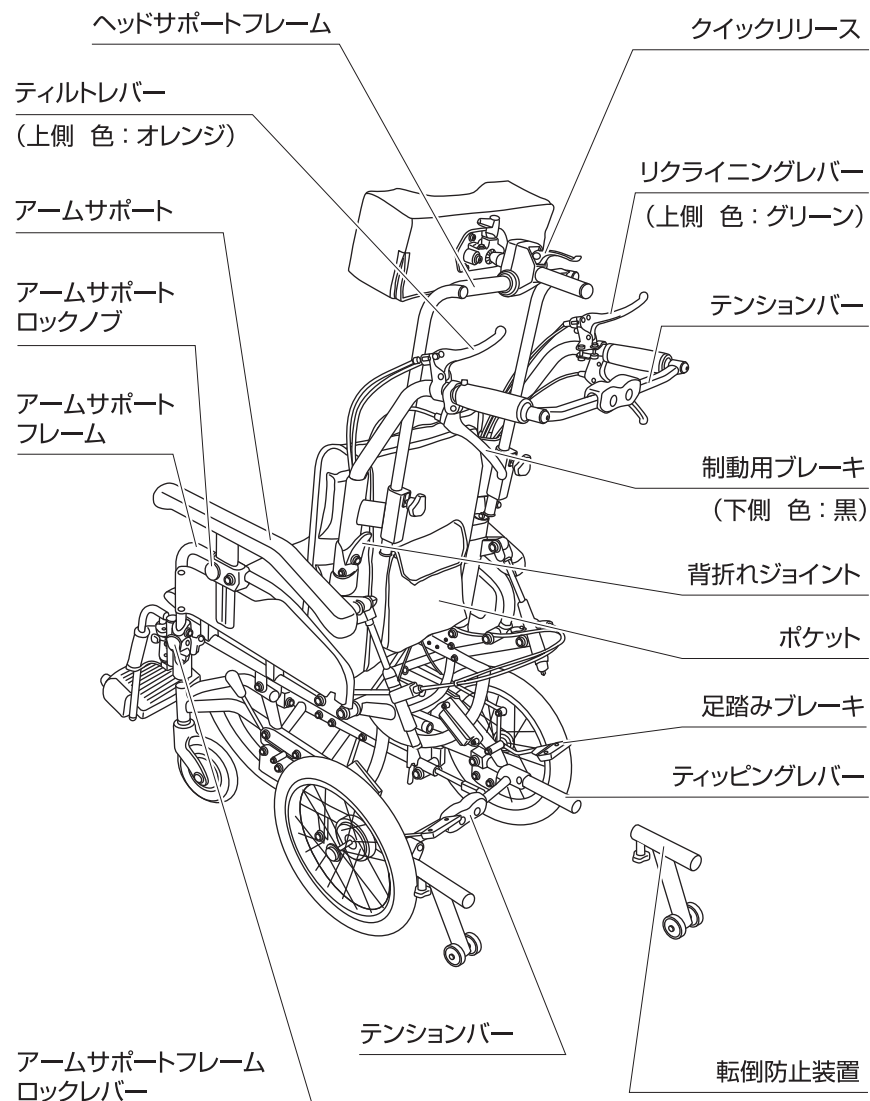
バックサポート
ヘッドサポート
インナーパッド
手押しハンドル
（グリップ）
背アウターシート
シート／座アウターシート
サイドガード
フット･レッグサポート
レッグサポート
駐車用ブレーキ
主輪
キャスタ
フットサポート
フット・レッグサポート回転レバー





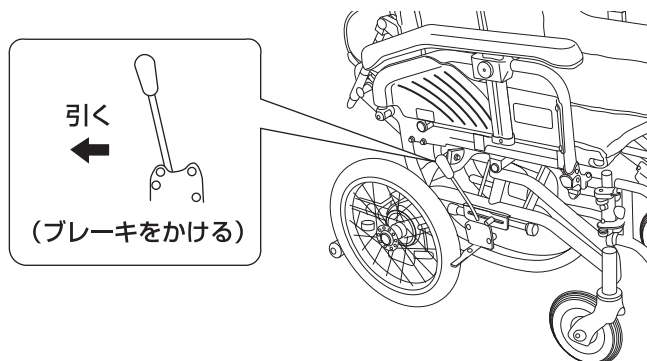
## 後側

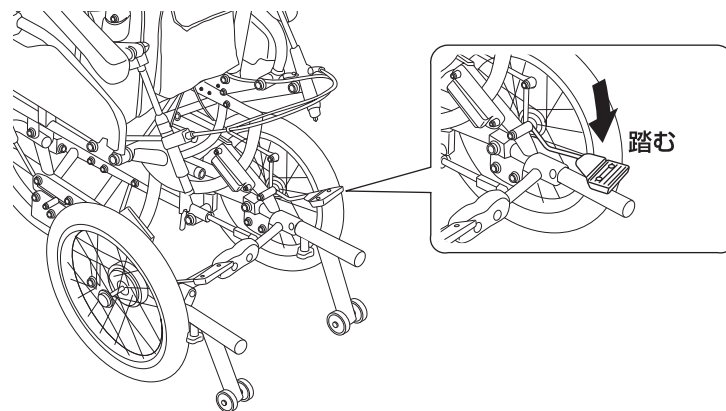
ヘッドサポートフレーム
クイックリリース
ティルトレバー
（上側　色：オレンジ）
リクライニングレバー
（上側　色：グリーン）
アームサポート
テンションバー
アームサポート
ロックノブ
アームサポート
フレーム
制動用ブレーキ
（下側　色：黒）
背折れジョイント
ポケット
足踏みブレーキ
ティッピングレバー
テンションバー
アームサポートフレーム
ロックレバー
転倒防止装置

# 使いかた

## ブレーキのかけかた

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | ・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。<br>・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損･変形し、転倒する恐れがあります。<br>・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。<br>・タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してください。タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。<br>・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。 |

### ● 駐車用ブレーキのかけかた

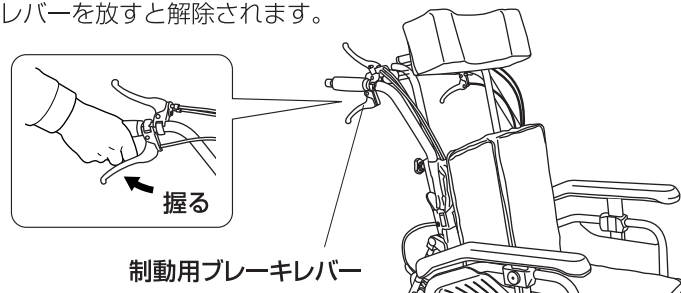
**使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。**
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。

### ● 足踏みブレーキの使いかた

**介助者が、左右の足踏みブレーキを踏み込みます。**
（駐車用ブレーキがかかります。）
足踏みブレーキを足で持ち上げて元の位置に戻すと解除されます。

### ● 制動用ブレーキのかけかた

| | |
|---|---|
| ⚠危険 | ・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。<br>・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。<br>また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。 |

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。<br>転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 |

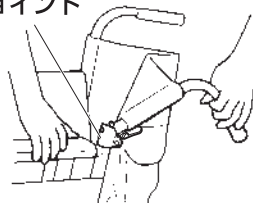
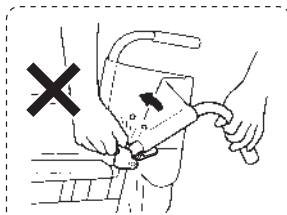
| | |
|---|---|
| ⚠注意 | ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。<br>（交換の目安:1年に1度） |

**介助者が、左右の手押しハンドル下側の制動用ブレーキレバー（ブレーキ マークが付いた黒色のレバー）を左右同時に握ってかけます。**
ブレーキレバーを放すと解除されます。

## 車いすの開きかた

| ⚠注意 | ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。<br>・必ずブレーキをかけて操作を行ってください。<br>・車いすを開くときは、連動して各部が動きますので、手をはさまないように注意してください。 |
|---|---|

### ● 開きかた

**1** **駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。**

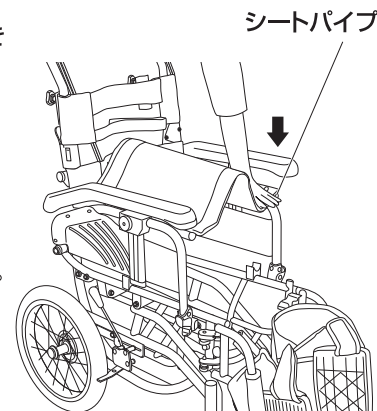
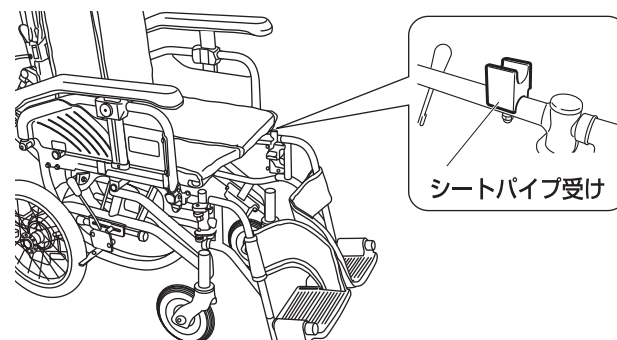
**2** **手押しハンドルを両側とも上げます。**
＊背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
＊このとき、背折れジョイントに手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

手押しハンドルを両側とも上げる

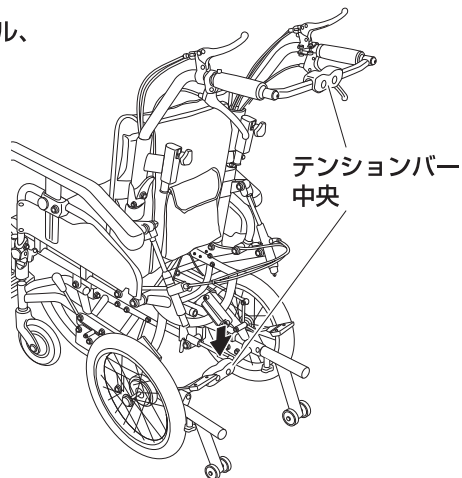
手をはさむおそれあり

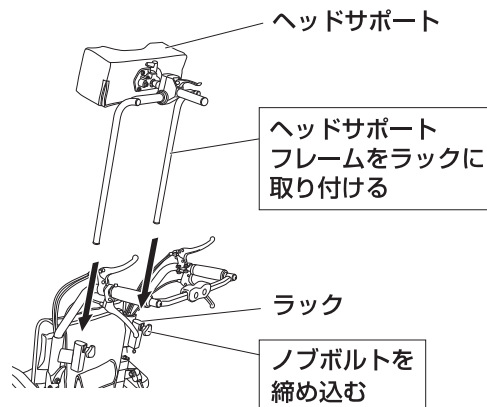




**3** **手押しハンドルを両側とも軽く持ち、車いす本体を浮かせながら左右に開きます。**

**4** **シートパイプの両端を手の平で押し下げます。**
＊シートパイプを握らないでください。
＊シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。

**5** **シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとはまっていることを確認します。**
＊しっかりはまっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。
＊シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。
＊左右のフレームがねじれていると、シートパイプをはめにくい場合があります。そのときは、ティルトレバーを操作して左右のフレームのねじれを直してください。

**6** テンションバーは手押しハンドル、主輪内側の２箇所にあります。テンションバーの中央を持ち、ロックするまで押し下げます。

＊テンションバーは足で踏まないでください。破損する恐れがあります。

**7** インナーパッドを取り付けます。
（P17「シートの取り付け・取り外し」参照）

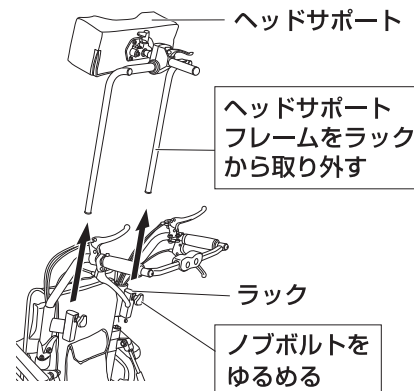
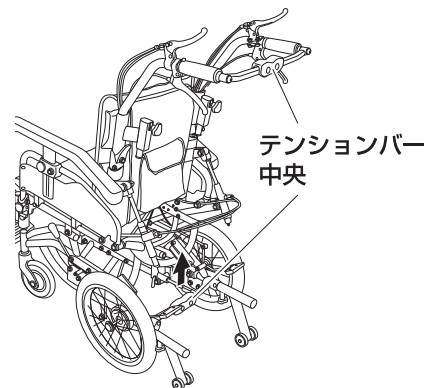
**8** 背アウターシートと座アウターシートを取り付けます。
（P17「シートの取り付け・取り外し」参照）

**9** ヘッドサポートを取り付け、ノブボルトを締め込みます。
（P31「ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節」参照）

## 車いすのたたみかた

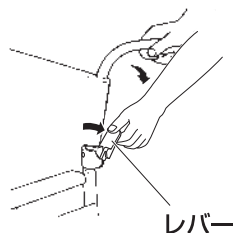
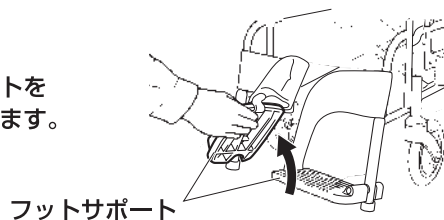
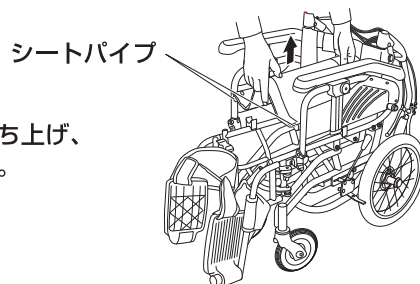
| ⚠警告 | ・アームサポートを持って車いすをたたまないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。<br>・車いすをたたむときは、連動して各部が動きますので、手をはさまないように注意してください。 |
|---|---|

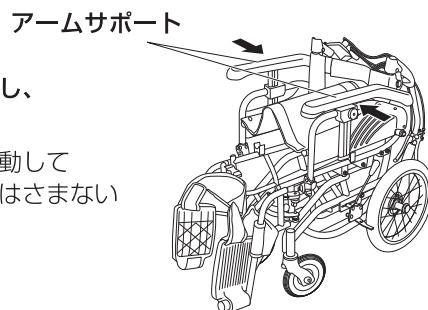
**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

**2** ティルト・リクライニングをしている場合は、元の角度に戻します。

**3** ノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートを取り外します。
（P31「ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節」参照）

**4** テンションバーは手押しハンドル、主輪内側の２箇所にあります。テンションバーを上に持ち上げ、少し折り曲げます。

**5** 背アウターシートと座アウターシートを取り外します。
（P17「シートの取り付け・取り外し」参照）

**6** インナーパッドを取り外します。
（P17「シートの取り付け・取り外し」参照）

**7** レバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。

**8** フットサポートを両側とも上げます。

**9** 座アウターシートの前後を持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。

**10** アームサポートを両側から押し、シートを折りたたみます。

＊車いすをたたむときは、連動して各部が動きますので、手をはさまないように注意してください。

## シートの取り付け・取り外し

| ⚠注意 | ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてからおこなってください。<br>・使用者が乗車していない状態で作業してください。<br>・面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。 |
|---|---|

### インナーパッドについて

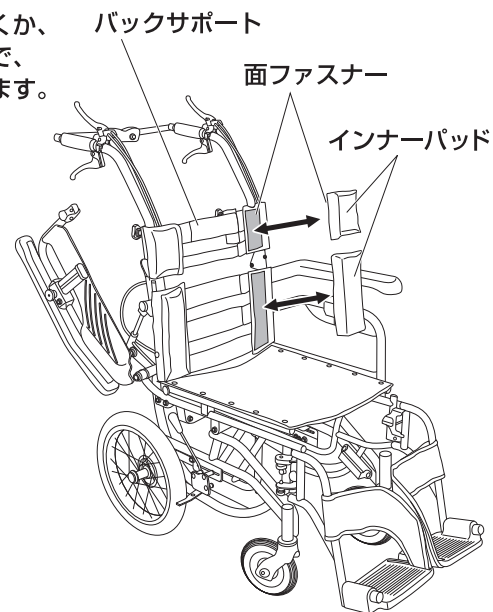
使用者の体型や状態、座り具合に合わせてインナーパッドの取り付け、取り外しを行ってください。

#### ● 取り付けかた

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

**2** 前面側の背アウターシートをめくり上げます。

**3** インナーパッドとバックサポートそれぞれの貼り付け面が面ファスナーになっています。
使用者に合わせ、必要な分のインナーパッドを適切な位置に貼り合わせてください。

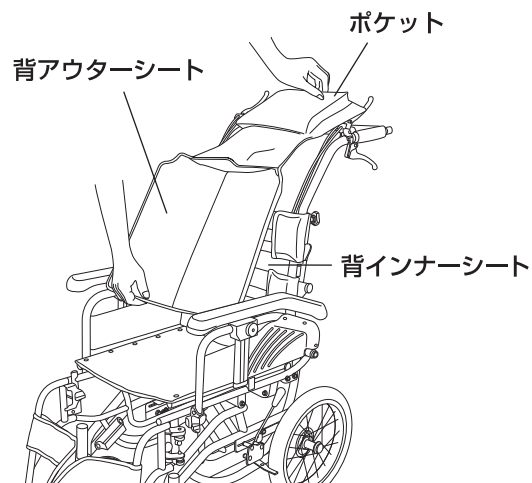
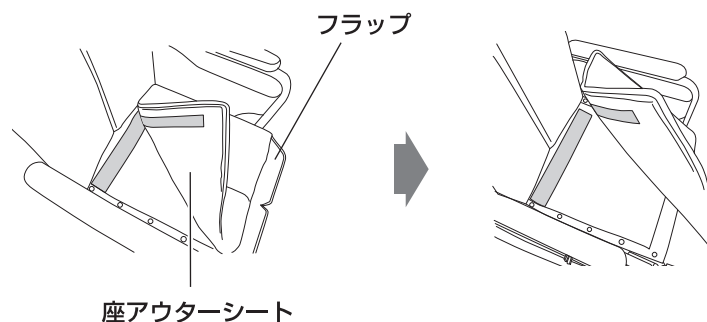
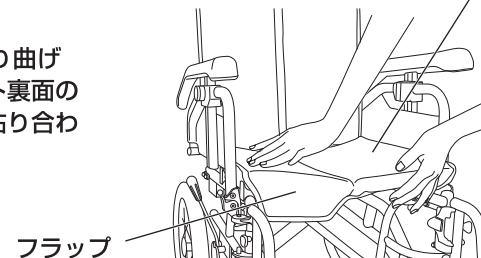
**4** 背アウターシートを元に戻します。

#### ● 取り外しかた

取り外しは逆の手順になります。

## アウターシートについて

### ● 取り付けかた

**1** 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせます。

背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。

**2** 座アウターシートのフラップを前側にし、車いす本体のインナー座シート表面の面ファスナーと貼り合わせます。

**3** フラップ部を折り曲げインナー座シート裏面の面ファスナーと貼り合わせます。

### ● 取り外しかた

取り外しは逆の手順になります。

## レッグサポートについて

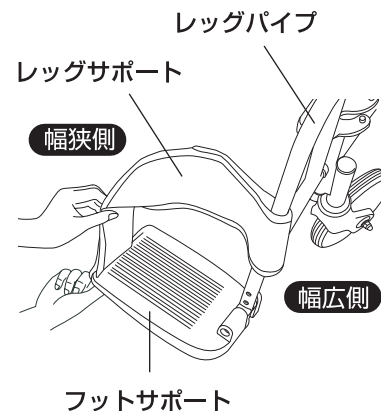
### ● 取り付けかた

**1** レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。

**2** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。

**3** 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。

**4** 反対側も同様の作業を行います。

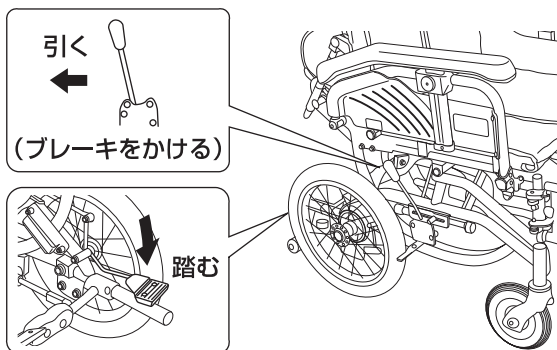
レッグパイプ
レッグサポート
幅狭側
幅広側
フットサポート

### ● 取り外しかた

取り外しは逆の手順になります。

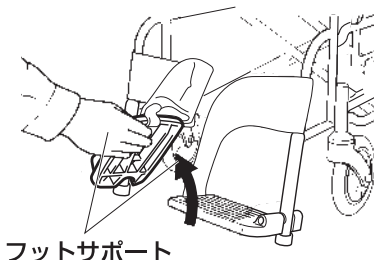
## 乗り降りのしかた

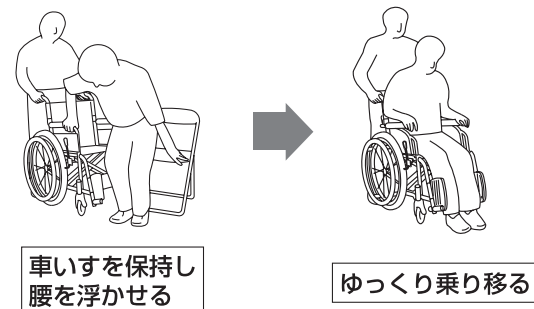
| ⚠警告 | ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。<br>車いすが動きだし大変危険です。<br>・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。<br>転倒し、けがをする恐れがあります。<br>・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。<br>けがをする恐れがあります。<br>・ティルト・リクライニングさせた状態で乗り降りしないでください。<br>転倒し、けがをする恐れがあります。 |
|---|---|

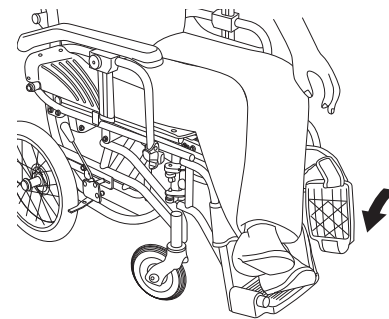
### ● 乗りかた

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

**2** ティルト・リクライニングをしている場合は、元の角度（背:90°、座:水平）に戻します。

**3** フットサポートを両側とも上げます。

＊フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
＊上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

**4** 必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能）」（P24 参照）や、「アームサポートフレームの跳ね上げ（ウイング機能）」（P23 参照）を行います。

**5** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。

**6**「フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能）」や、「アームサポートフレームの跳ね上げ（ウイング機能）」を行っていた場合は、元に戻します。

**7** フットサポートを降ろして両足を乗せます。

### ● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

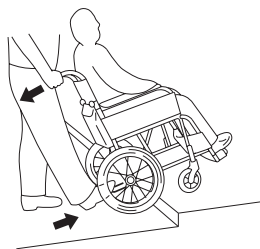
## 段の上がりかた

| ⚠警告 | ・ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。<br>・持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。 |
|---|---|

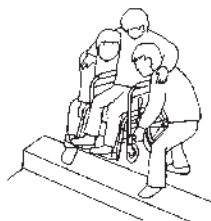
**1** ティルト・リクライニングをしている場合は、元の角度に戻します。

**2** 転倒防止装置を取り外します。
（P30ページ「転倒防止装置の取り付け・取り外し」参照）

**3** 足元のティッピングレバーを前方に押し出すように踏み込みながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上にあげます。

＊ティルトレバーを握った状態でティッピングレバーを踏むと、フレームがねじれ片側のキャスタだけが浮いてしまいます。
このような状態になった場合は、ティッピングレバーを踏まずに両方のティルトレバーを握ると元に戻ります。

**4** 主輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
＊無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

**5** 上がり終えたら、転倒防止装置を取り付けます。

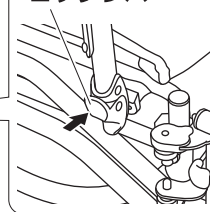
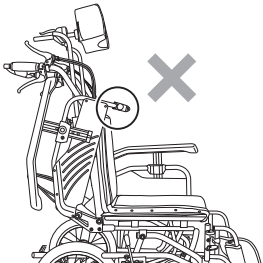
**車いすに乗ったまま持ち上げる場合**
車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。

## アームサポートフレームの跳ね上げ（ウイング機能）

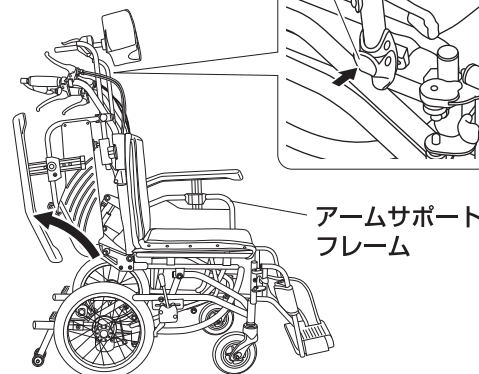
アームサポートフレームをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。
ベッド等と車いすの間の移乗などがスムーズに行なえます。

| ⚠注意 | ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。<br>・アームサポートフレームを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながる恐れがあります。<br>・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートフレームの先端がバックサポート前面よりもはみ出さない位置まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。<br>・ティルト・リクライニングさせた状態で、アームサポートを跳ね上げないでください。車いす破損や故障の原因になります。 |
|---|---|

### ● 跳ね上げかた

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

**2** ティルト・リクライニングをしている場合は、元の角度（背：90°、座：水平）に戻します。

**3** ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。

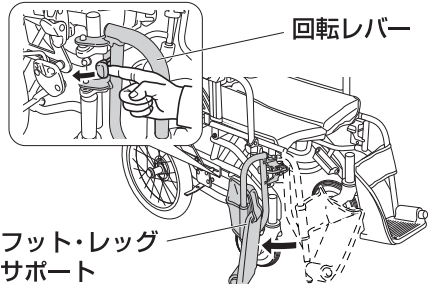
＊アームサポートフレームを上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。

## ● 跳ね上げかた

| | |
|---|---|
| ⚠注意 | アームサポートフレームの先端がバックサポート前面よりもはみ出ない位置まで跳ね上げてください。<br>はみ出ていると、移乗の際にけがをする恐れがあります。 |

## ● 戻しかた

| | |
|---|---|
| ⚠注意 | アームサポートフレームを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。 |

アームサポートフレームを下ろし、ロックさせます。

＊アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。

## フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能）

フット･レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット･レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。<br>・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。<br>・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。<br>・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。 |

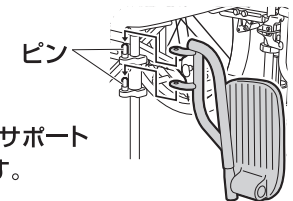




## ● 開きかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

## ● 閉じかた

| | |
|---|---|
| ⚠注意 | フット･レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。 |

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 フット･レッグサポートを内側に回転させて閉じます。
閉じた後、フット･レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

## ● 取り外しかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 フット･レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

## ● 取り付けかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

ピン

2 車体フレーム側の2つのピンにフット･レッグサポート側の回転軸穴（2箇所）を合わせてはめ込みます。

3 フット･レッグサポートを内側に回転させて閉じます。
閉じた後、フット･レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

＊フット･レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

＊フット･レッグサポートを開いた状態で、フット･レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

# 各部の調節のしかた

| ⚠警告 | 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。 |
|---|---|

## フットサポートの高さ調節

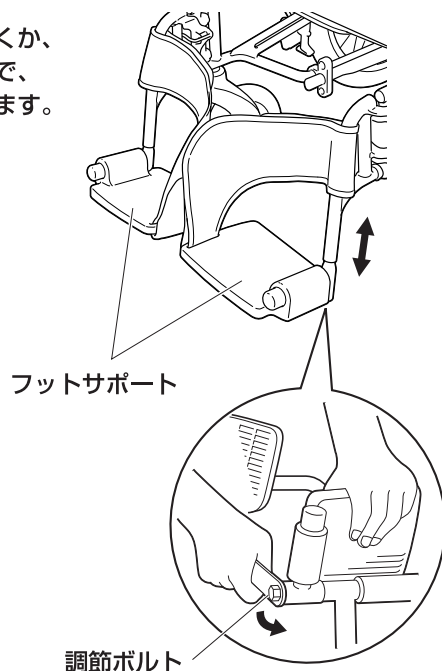
| ⚠注意 | フットサポートは、地上より 50mm 以上あげた状態で使用してください。 |
|---|---|

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

**2** フット・レッグサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。

**3** 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。

**4** 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

＊反対側も同様に調節してください。

＊フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。





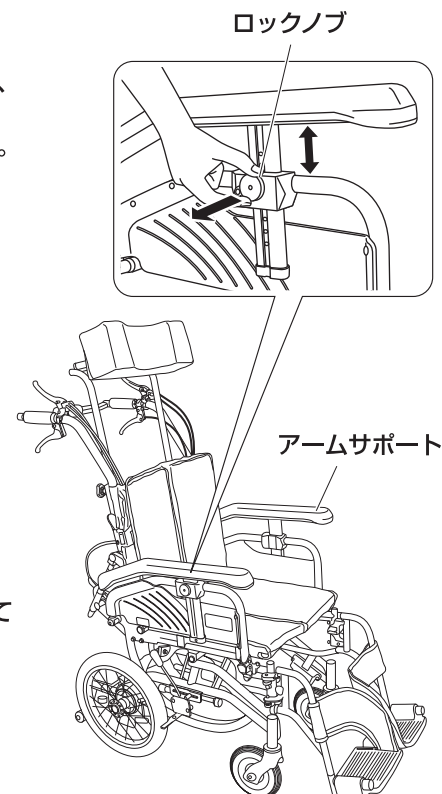
## アームサポートの高さ調節

| ⚠注意 | ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。<br>・調整中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないよう注意してください。けがをする恐れがあります。<br>・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 |
|---|---|

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

**2** ロックノブを引いてロックを解除します。

**3** ロックノブを引いたままアームサポートの高さを調節し、希望の高さでロックレバーをはなします。

**4** アームサポートが確実に固定されていることを確認します。

＊反対側も同様に調節してください。

＊調節後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。

## シートの角度調節（ティルト機能）

| ⚠注意 | ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。<br>・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。<br>・ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。<br>使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。 |
|---|---|

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

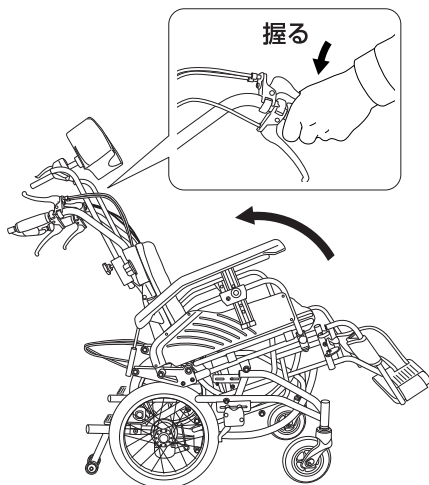
**2** 左側手押しハンドルグリップ上のレバーを握ります。

（ティルト マークが付いたオレンジ色のグリップです。）
シートの角度が0～20度の範囲で調節可能になります。

**3** お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを離します。

シート角度が固定されます。

**4** シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

＊操作はゆっくり行なってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。
＊使用者の体格や状態、シートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。
その場合はシート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。

## バックサポートの角度調節（リクライニング機能）

| ⚠注意 | ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。<br>・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。<br>・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。<br>使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。 |
|---|---|

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

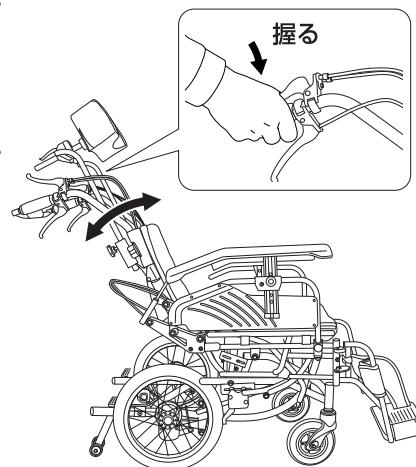
**2** 右側手押しハンドルグリップ上のレバーを握ります。

（リクライニング マークが付いた緑色のグリップです。）
バックサポートの角度が90～110度の範囲で調節可能になります。

**3** お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを離します。

バックサポート角度が固定されます。

**4** シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

＊操作はゆっくり行なってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。
＊使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。
その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。

## 転倒防止装置の取り付け・取り外し

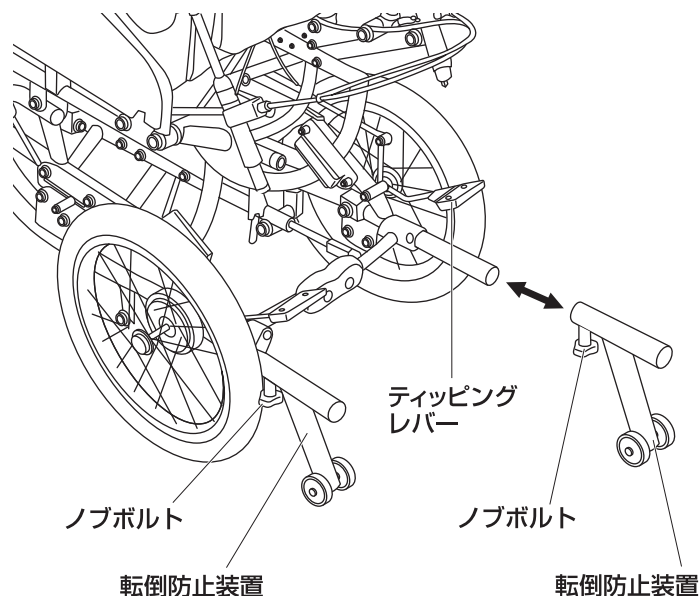
| ⚠注意 | 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。 |
|---|---|

### ● 取り付けかた

転倒防止装置(2本)を、図の向きにしてティッピングレバーに差し込み、ノブボルトで 締め付けて固定します。

＊転倒防止装置が一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。
通常は、転倒防止装置を図のようにセットした状態でご使用ください。

### ● 取り外しかた

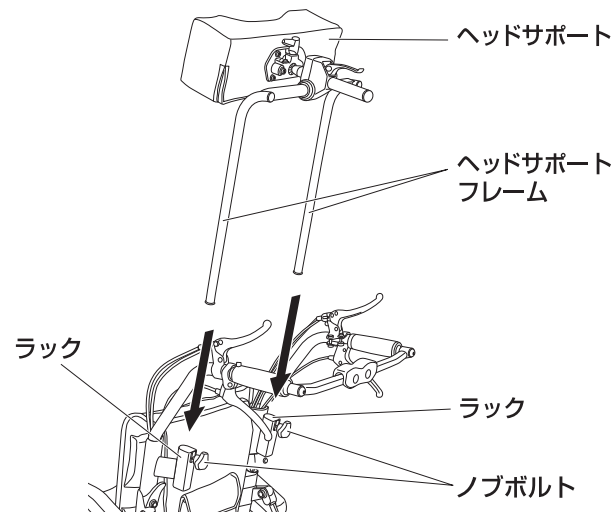
ノブボルトをゆるめ、転倒防止装置(2本)をティッピングレバーから抜き取ります。

## ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節

| ⚠注意 | ヘッドサポートの着脱は、使用者が乗車していない状態で行ってください。 |
|---|---|

### ● 取り付けかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 左右のラックにヘッドサポートフレームを差し込みます。
＊ノブボルトに当たって入らない場合は、ノブボルトをゆるめてください。

3 ヘッドサポートの高さを使用者の頭の位置に合わせ、左右のノブボルトを締め付けて固定します。

＊ヘッドサポートとヘッドサポートフレームにガタつきがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。

### ● 取り外しかた

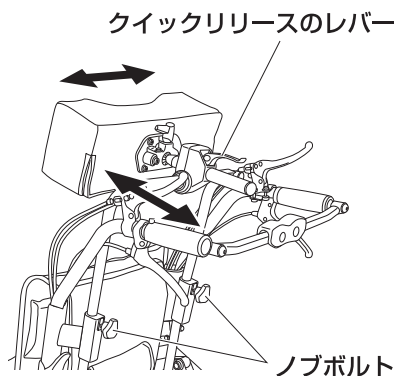
取り付けと逆の要領でノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートフレームを上に持ち上げてラックから取り外します。

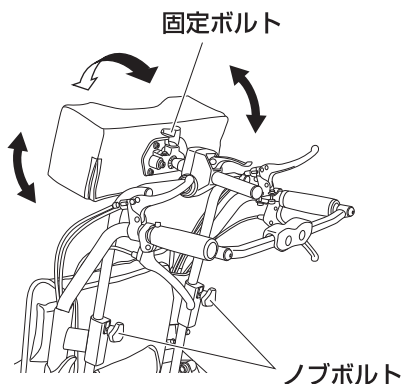
## ● 位置・角度調整のしかた

使用者の体や状態に合わせて、ヘッドサポートを適切な高さ、位置、および角度になるように調節してください。

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

**2** ノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートの高さを調節後、ノブボルトを締め付けてヘッドサポートフレームを固定します。

**3** クイックリリースのレバーを倒します。ヘッドサポートの位置を左右・前後にスライドさせて調節し、レバーを起こして固定させます。

**4** 固定ボルトのレバーを左回りにまわし緩めます。ヘッドサポートの角度を調節し、レバーを右回りにまわし固定します。

※固定ボルトのレバーを引き上げてまわすと空回りをし、レバーの位置を調節できます。

## バックサポートの張り具合調節

| ⚠注意 | ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。<br>・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、充分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。 |
|---|---|

バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

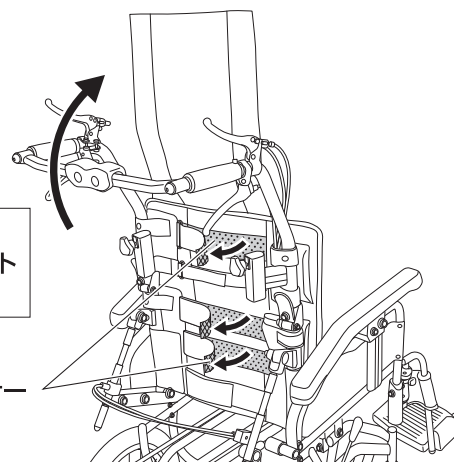
**1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

**2** ポケット側の背アウターシートをめくり上げます。

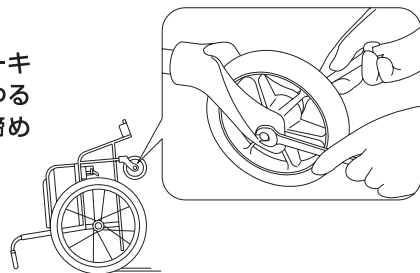
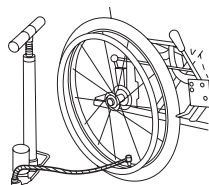
**3** 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

＊手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

**4** ポケット側の背アウターシートを元に戻します。

# 使用上のご注意

## 保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
＊ 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

| ⚠警告 | キャスタ、主輪、ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。  |
|---|---|

タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。
（タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。）

・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
（地上より50mm以上あげてください。）

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。





## 消耗品、交換部品の確認

| ⚠注意 | 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。 |
|---|---|

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上の販売店へご連絡ください。

### 消耗品・交換部品

| 品名 | 交換時期 |
|---|---|
| 主輪 | タイヤの表面に溝がなくなったとき。 |
| キャスタ | 表面の摩耗が著しいとき。しっかりロックしても車輪ががたつくとき。 |
| シート | ほつれ、切れ目が発生したとき。<br>ひどく汚れたとき。<br>面ファスナーの接着が弱くなったとき。 |
| ワイヤー | ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき。 |

## お手入れ・保管について

### ● フレームのお手入れ

・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

### ● シートのお手入れ

・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● **アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ**

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

| ⚠注意 | 交換時期になったときは、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。 |
|---|---|

● **保管・収納について**

・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。

・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

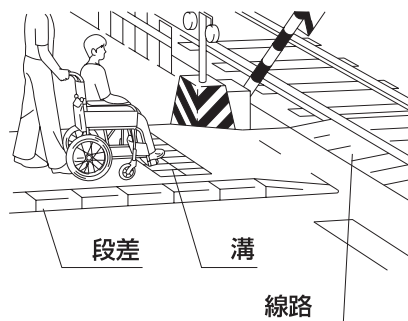
## 走行上のご注意

・車いすは歩行者として扱われています。
車道を通らず、必ず歩道を通ってください。

・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。

・溝や踏切の線路による落輪、キャスタのはさみ込みには充分注意してください。

・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。

・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。

# 困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

| 症　状 | 確　認　点 | 対　処 |
|---|---|---|
| 車いすがまっすぐ走らない。斜行する。 | 路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。 | 路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。 |
| | 主輪の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。 | 左右の主輪を適正な空気圧に調整してください。 |
| | キャスタの回転に左右差がありませんか。キャスタ軸の回転がスムーズですか。 | お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |
| | キャスタ、主輪の計４輪がきちんと接地していますか。 | |
| 駐車用ブレーキが効かない。 | 主輪の空気圧は適正ですか。 | 主輪を適正な空気圧に調整してください。適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。 |
| | 主輪のタイヤは摩耗していませんか。 | お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |
| | 駐車用ブレーキのタイヤ押えが主輪にきちんと当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。 | |
| 制動用ブレーキ（介助ブレーキ）が効かない。 | ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。 | インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |
| | ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。 | お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |

## 困った時には

| 症　状 | 確　認　点 | 対　処 |
|---|---|---|
| 主輪に空気がはいらない、すぐぬける。 | 適正な空気圧で補充していますか。 | 主輪を適正な空気圧に調整してください。適正空気圧はタイヤ側面に記載せれています。 |
| | トップナット（コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ）が緩んでいませんか。 | 締め付けてください。 |
| | タイヤチューブのパンク、バルブの消耗はしていませんか。 | お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |
| 異音がする。 | 本体や車輪とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。 | 車いすに取り付けて使用するカバンなどは車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。 |
| | 可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩耗音がしていませんか。 | お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |
| | ボルト類の緩み等がおきていませんか。 | |
| | フレームに歪みが発生していませんか。 | |
| 車いすが開かない。 | バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。 | バックサポートの張り具合を調整してください。 |
| リクライニング・ティルトの動きが悪い。 | ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。 | インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取りまわしを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |
| | ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。 | お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。 |



# 仕　様

| フレーム材質 | アルミ |
|---|---|
| シート材質 | #32、#41　：ナイロン<br>#A-4、#A-6：ポリエステル |
| アームサポート | ウレタン |
| サイドガード | 樹脂 |
| グリップ | エンボスグリップ |
| バックサポート | テンション |
| 背折れ | あり　レバー式 |
| フック・レッグサポートタイプ | 開き式（スイングアウト） |
| フットサポート | 軽量ステップ　黒 |
| キャスタ | 6"（黒）ソフトフォーミング　マルチ |
| タイヤ | エアータイヤ |
| 制動用ブレーキ | あり |
| ハンドリム | なし |
| 駐車用ブレーキ | KTブレーキ 標準大　足踏みブレーキ |

単位：mm

| 全長 | 1010 |
|---|---|
| 全幅 | 490 |
| 全高 | 1100～1240 |
| シート幅 | 400（アームサポートフレーム内々） |
| 前座高 | 435 |
| 後座高 | 435 |
| シート奥行 | 400 |
| バックサポート高 | 380 |
| 主輪径 | 14×1.5インチ |
| キャスタ径 | 6インチ |
| アームサポート高 | 220/240/260/280/300/320 |
| フットパイプ長 | 360～ |
| 折りたたみ時の全幅 | 320 |
| 折りたたみ時の全長 | 780（1030） |
| 折りたたみ時の全高 | 710 |
| 重量 | 22.6kg |

※折りたたみ全長の（　）内はスイングアウト取り付け時
※折りたたみ時の全幅はワンタッチシート（背・座）を外した時